

日刊 動労千葉

1988.5.13
No. 2814

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

人戸亀

20日 12:30

18日 17:30 千葉

強制配転から一ヶ月 今取柄は！

↓配転後

配転前

労働者は将棋の駒じゃない！

四月の動労千葉三二名の強制配転は、職場から役員・活動家を切り離し、そのことによって組合活動をできなくしてしまい、そのスキを狙い、動労千葉を総ぐるみ破壊しようという悪らつな狙いをもった重大な組織破壊攻撃である。

敵は、「分割・民営化一周年」を期して、たまたかう国鉄労働運動を絶滅・解体・一掃するために、強制配転、不当処分、兼務外し、組織介入を一斉に始めたのだ。これが、「分割・民営化一周年」の本質である。

今号は、強制配転がいかにでたらめで、動労千葉絶滅のためのものであったのかを配転前、配転後の実態にスポットをあて、怒りを新たにしたい。

千葉駅 見習いのベツトを
用意していない

今回の不当配転で勝浦支部は十一名中八名が千葉駅に配転させられた。

千葉駅の直営店は、おそ番、早番の日勤だが、おそ番の終了時間が二時、早番の出勤時間が六時となってしまったため、おそ番→早番のユニット勤務になっている。

配転された仲間たちは、配転された日からさっそく見習いにつき予定で、すでに勤務割りができあがっているのだが、なんと、見習いのためのベツトが用意されてなかったのだ。配転された仲間は怒り新頭に発している。

津田沼運転区

同じく赴任の日、津田沼運転区の配転された仲間、四日前の点呼で当直から配属された職場に直接十三時三〇分までに行くように勤務指定された。

ところが前日になり、津田沼運転区に八時三〇分までに出勤するように当直から配転者に電話があり、「四日前に勤務確定したのにおかしいじゃないか」と問い直したところ、「きまっちゃったことだから仕方がない」と繰り返すばかりで、何故勤務変更をしたのかという理由さえわからない。

赴任の日、津田沼運転区に出勤したところ、また配属先に十三時三〇分までに行くようにと当直が指示、配転された仲間が「きょうの勤務は一体どのような勤務なのか。終了時間は何時なのか？」と聞くと、当直は「わからない。配属先で聞いてみてくれ」といい加減な返答。こんないい加減な勤務指定があるのか！

稲毛海岸駅 配転先からまた再配転

稲毛海岸駅に配属された津田沼運転区の仲間三名は、五月十三日にまた、新習志野、検見川浜、海品幕張に再配転。三名をバラバラにしたのだ。現場の職制に問い直したところ、「上からの指示です。」団結を破壊するためには手段を選ばない当局を断じて許さない！